

視聴覚教育

NO. 431
発行日
29. 3. 24

発行
岡崎市 A V L
編集
現職研修委員会
学習情報部

これ知ってる！？
『コラボノート』
PC室やタブレットPCで利用できる協働学習支援ソフトウェア。同時に編集ができる「Web上の台紙」のようなもので、一般にはデジタル模造紙と呼ばれる。個々の書き込みが、リアルタイムに確認できるので、関わり合いを促す場面で活用できるソフトである。

この一年のあゆみ

現職研修委員会学習情報部長 名倉 嘉章

本年度、初開催となった「日本こども映画コンクール」(毎日映画社主催)の表彰式が先月東京で行われました。このコンクールでは、準グランプリと審査員特別賞(三位相当)を、岡崎の小中学生が制作した作品が受賞しました。こうした成果は、自作教材制作や映像制作による表現活動など、脈々と受け継がれてきた本市の視聴覚教育の確かさを物語っています。

さて、本年度も自作教材制作では、おかげさ映像教材研究会が制作した六点全ての教材が、愛知県自作視聴覚教材コンクールで入賞しました。また第十四回となる「ふるさと岡崎メディアコンクール」にも、過去最高の二四四点の応募がありました。本市の伝統である映像の力を生かした視聴覚教育が、今年も確実に受け継がれ、成果を挙げていることに喜びを感じます。

一方、情報教育の面では、学習情報部や情報教育推進委員会を中心に、様々な実践・研究が積極的に行われました。中でも、十一月に葵中学校で開催された研究発表会では、協働学習を実現するためのツールとして、ICTが全ての

授業に位置付けられていました。各々の授業の中では、生徒たちが主体的にICTを活用して協働的に学ぶ姿が見られました。教科・領域の特性に応じ、その目標や課題を達成するための手立てとしてICT活用の有効性を探った研究は、大変参考となるものでした。

また、情報モラル育成の面では、七月のTAV(自主研修会)で道徳部・特別活動部・生徒指導部と連携し、若年化しているネット利用の危険性について、活発な情報交換が行われました。今や情報モラルは、全ての教員が教科・領域の壁を越えて取り組まなければならない課題と言えます。今後もうこうした研修が継続されることを期待しています。

先月示された次期学習指導要領案では、情報モラルを含めた情報活用能力が、言語能力や問題発見・解決能力と共に、全ての学習の基盤となる資質・能力として位置付けられています。そのため、視聴覚・情報教育の役割は、ますます大きくなるでしょう。岡崎市としては、これまでの視聴覚・情報教育の基盤の上に着実な実践と研究を積み、新しい時代の教育に果敢に挑戦していきたいものです。

II 視聴覚教育あれこれ
●平成28年度 愛知県自作視聴覚教材コンクール
○生涯学習部門

優秀賞

『岡崎城』 ～新しい発見をもとに、歴史をたどる～
鈴木 広樹(額田中) 成瀬 正和(羽根小) 内田 敏明(北野小)
佐藤 雄太(広幡小) 藤渕 俊旭(矢北小) 鈴木 彩水(岩津小)
村田 貴志(井田小)

佳作

『証言「三河地震」～妙喜寺近辺の人々～』
太田 尚志(北中)

○学校教育部門 (1)ビデオ教材

優秀賞

『自然との共生』 ～持続可能な社会を目指して～
鈴木 一史(竜海中) 赤堀 大知(矢南小) 内藤 恵三(竜海中)
峯澤 泰季(南中) 鶴園 遼雅(北中) 荒井奈穂子(岩津小)
佐渡 英彰(矢北小)

優良賞

『「新」東名高速道路』
～日本をつなぎ、未来を創る～

水野 利明(六名小) 近藤 雄一(東海中) 海藤 健児(豊富小)
神野 裕美(井田小) 大塚 真悟(梅園小) 田中章太郎(六名小)
松浦 圭祐(根石小) 島田 繁直(六西小)

佳作

『化学変化によって取り出される金属』
～私たちの生活を便利にするために～

森 綾子(下山中) 服部 将也(梅園小) 高瀬 玲子(愛宕小)
荻野 悠(翔南中) 井上 清美(緑丘小) 山口秀樹(竜美丘小)
岡 秀之(矢作中)

○学校教育部門 (2)コンピュータソフトウェア教材

優秀賞

『中一理科 地震のメカニズム』
～岡崎と地震の関係～
太田 尚志(北中) 杉山 康子(六北小) 加藤 明(小豆坂小)
中島 翼(生平小) 大原 洋平(六北中) 青山将太郎(六中小)
空中 健一(岩津小) 内田 雅之(北野小)

優良賞

『すごいぞ！水道水！！』

中山美奈子(矢南小) 長谷川誉幸(葵中) 岩川 皓司(葵中)
中根 良輔(翔南中) 原田 庸平(常磐小) 白井 浩太(六北中)
加藤 光(竜美丘小) 三輪 恭之(六美中)

佳作

『筆順の友・書き取りの友』 竹内 昭博(下山中)

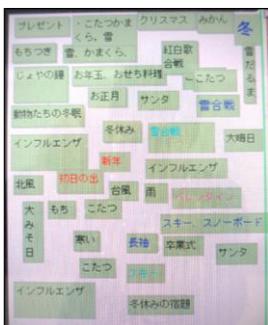
実践報告II

コラボノートを活用した国語の学習

常磐南小学校 黒柳 成実

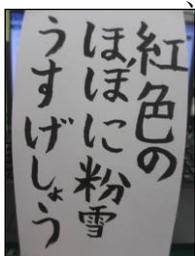
五年生の国語科「日本語のしらべ」で、詩や俳句を通して、言葉から季節を味わう学習を行った。俳句を作る際に問題となったのが、季節の選択だった。そこで、コラボノートを活用して春夏秋冬の季語を共有し、使える言葉を広げようと考えた。

まず、PC室でコラボノートの使い方を説明した。キーボード入力など、基本的な操作だけで利用できるため、子供たちはすぐに使う



ことができた。級友が書き込んだ季語は、リアルタイムに自分の画面にも表示される。「そんな季語もあるんだ」という会話が自然と生まれた。さらに、国語の授業があまり得意でない子供も、「コラボノートでやると、一斉にみんなと会話しているみたいで楽しいので、どんどん入力したいと思いました。」と意欲的に学習に取り組んだ。

最初は悩んでいた季語も、コラボノートで共有したことで、率先して自分の俳句の中に取り入れる姿が見られた。ある子供は「雪」という人が多かったので、ちよつと発想を変えて粉雪で作りたいと考えました」と感想を書き、以下のような句を詠んだ。季語の共有が、子供たちの主体的な俳句作りにつながった。



II レッツ・トライ！ICT II

今回使用したソフト・機材

Microsoft Publisher

少し凝ったデザインの紙面を作ろうとすると、写真やイラスト、テキストボックスなどが意図する箇所に貼れない。または、何かの拍子にそれらが急に消えてしまい、「戻る」のコマンドを何度もうクリックする。先生方は、このような体験をしたことがないだろうか。こういうことが起こると、作業が振り出しに戻り、大いに作業意欲が削がれてしまう。私は、日々の学級通信やワークシートの作成をする際には、



「Microsoft Publisher」というソフトを使用している。本ソフトは「Microsoft Office」に含まれている。写真やテキストボックスなどを任意の箇所に貼り付け、思い通りにレイアウトすることが容易にできることから、写真やイラストなどを多用した、凝ったデザインの紙面を作成するのに適している。操作感は「Microsoft Word」に似ているが、レイアウトの自由度はWordに比べて高く、ストレスのない紙面作成ができると感じる人は多いだろう。デザインを重視した紙面作成に本ソフトを利用することで、効率的かつ快適な作業が期待できる。校務用PCにもインストールされているので、一度試してみたいかがだろうか。

(大門小学校 学習情報主任 後藤 有貴)

ライブレリーだより

本年度も市内の視聴覚・情報教育の実践で、コンテストの入賞や振興助成を受けました。結果は次のとおりです。(敬称略)

●第1回日本子ども映画コンクール

(毎日映画社主催)

【準グランプリ賞】

『エクストリーム下校 夕暮れのタイムリミット』

北中メディア部

【審査員特別賞】

『あいさつのまほう』 井田小パソコン部

●第19回キューブ活用コンテスト

【グランプリ】

『占部用水作りの苦労』

六北小四年三組

●第6回コラボ実践コンテスト

【特別賞】

『チャレンジ六北小エコキッズく水エコにチャレンジしよう』 六北小四年三組

チャレンジしよう』

●アジア国際子ども映画祭(中部・北陸大会)

【大野市教育長賞】六北小

【結の故郷賞】愛宕小、六北小

★編集後記★

今年度一年間、実践報告やレッツ・トライへ情報をお寄せいただきありがとうございます。タブレットPCの活用や情報モラル教育など、視聴覚・情報教育に求められるものは多岐にわたりますが、少しでも先生方のサポートになるよう、来年度も充実した月報「視聴覚教育」を編集していきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

